

キク白さび病情報第1号

令和6年7月3日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

キク白さび病の発生が山間部で多くなっています。
梅雨時期はまん延する恐れがありますので注意しましょう。

1 キク白さび病の発生状況

6月下旬に巡回調査を行った山間部4ほ場において、発生ほ場率50.0%（平年20.0%、前年25.0%）、発病茎率6.0%（平年0.58%、前年0.50%）と、**発生ほ場率は過去10年間で2番目、発病茎率は最も高い状況**でした。平坦部については巡回調査では発生を確認していませんが注意が必要です。

2 キク白さび病について

キク白さび病は糸状菌による病気で、感染すると葉の裏側に白い小斑点ができ、さらに病気が進行すると、白色～淡褐色のいぼ状の斑点になります。多発すると葉の他、がくや茎にも斑点ができます（図1、2）。発病適温は20℃であり、夏の高温期になると発病は止まりますが、梅雨時期はまん延する恐れがあるため、防除に努めましょう。



図1 白さび病葉表の病斑



図2 白さび病葉裏の病斑

3 防除対策

- (1) ほ場や施設周辺の発病株は伝染源となるので、不要な親株等は速やかに処分する。
- (2) 被害葉は伝染源となるので、できるだけ摘除する。
- (3) 発生ほ場では、表を参考に薬剤を散布する。
- (4) 薬剤の使用にあたっては、薬剤感受性の低下を避けるため、作用機構が同じ薬剤の連用を控え、異なるFRACコードの薬剤をローテーションして使用する。

表 キク白さび病に対する主な薬剤

薬剤名	成分名	本剤の使用回数	FRACコード
ラリー乳剤	ミクロブタニル	5回以内	3
アンビルフロアブル	ヘキサコナゾール	7回以内	
カナメフロアブル	インピルフルキサム	3回以内	7
アミスター20フロアブル	アゾキシストロビン	5回以内	11
ハチハチ乳剤	トルフェンピラド	4回以内	39
ダコニール1000	TPN	6回以内	M5

FRACコードは殺菌剤の作用機構による分類を示す。

FRACコードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/code_pdf01_2024.pdfを参照する。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。